様式１

外部評価委員会結果記録書

令和５年３月３１日作成

評価年月日	令和５年２月１５日（水）
評価の概要	**１　令和４年度上半期の取組結果について** 各所属から実績が報告されるとのことだが、それぞれ状況は異なり、削減が難しい所属もある。各所属で状況に応じた細かい目標設定をするなどの取組が必要ではないか。 毎年度、予算や事業計画に基づいて事業を実施しており、その中で目標を達成するためには何をするべきか考えて取り組んでもらえたらと思う。また、各項目の増減にとらわれずトータルで温室効果ガスの削減が進んでいるとなればいい。 エネルギー関連項目は、気象をはじめ工事など諸々の要因に結果が左右されるが、省資源に関する項目は、がんばった結果が表れやすい。職員の圧力にならない程度に、数値を「見える化」する、エビデンスを示していくことも必要ではないか。 ＰＤＣＡサイクルを回していく中で、目標達成に向けどのように取り組むかは大事なことだ。また、電気料金が高騰する中、意識して節減することも必要だが、そのために業務効率が落ちてはいけない。バランスを取りながら取り組んでもらいたい。 研修について、対象者数や参加者数を示すことにより、参加意識が高まり参加者の増につながればと思う。欠席者への情報提供について、ホームページに載せているというだけでは不十分で、ストレスにならない程度に圧力をかけ推進してもらいたい。 研修はワークショップ形式とし、自発的に取り組む職員の参加を増やすことなども検討されたい。 **２　令和４年度事務局監査の結果について** 不適合、要改善がなかったのはいいことだが、要検討が多く、簡単なことがおろそかになっているとも言える。気を引き締めて取り組んでもらいたい。

部局担当者が監査員として他部局を監査する相互監査のようなことができれば、勉強にもなり意識も高まり効果があるのではないか。

各職員がＥＭＳを「自分事」として捉え、自主的・自律的にどう運用していくか考えれば、自ら気づいて改善できるのではないか。不適合、要改善がなかったことや要検討の原因分析により、今後、システムがしっかり機能する上でのヒントが得られる。

３　岡山県エコ・オフィス・プラン（案）について

ハード面、再生可能エネルギーを充実させ、快適さを維持しながら温室効果ガス排出量を減らす取組をプランに盛り込んでもらいたい。目標達成には、ハード整備に必要な額を算出して予算化することが重要である。予算の裏付けによりプランを実行してもらいたい。県が実行すれば県民の意識も変わる。

県職員が汗水たらしてしんどそうに取り組んでいることは、県民に浸透しない。楽しさやワクワク感を発信していくことで、県民生活に変化がもたらされればと思う。他県などの取組も参考にいいものに育てていってもらいたい。

施策、具体的な取組ごとに削減率を計算しておかないと絵に描いた餅になりかねず、そうしたデータが必要になると思う。ゼブに関しては、ゼブレディーを条件にするなど入札時に一定の基準がないと実効性が担保されないため、基準設定を検討いただきたい。

県職員がそれほど我慢しなくてもやれる程度でなければ、県民は動いてくれないということにも留意いただきたい。電気料金高騰で自宅では節電に努めており、これを職場でもやれば節減につながる。このように今行われていることをうまく使うなど、柔軟に取り組んでもらいたい。

「見える化」といわれるが見えない要素もある。電気を消すと節電による削減効果がある一方で、職員にストレスがかかりマイナスの要因となる。電気を消すことによる節電効果と、見えないストレスによるマイナス効果の相関性もわかってきている。ＥＭＳは数値を示して評価することになるが、いい数値だからいい状態とは言えず、バランスが難しい。